

Reforming the Japanese Ruby reference manual

Kazuhiro NISHIYAMA

株式会社*Ruby*開発

2026-09-05

self.introduction

- 西山 和広
- github など: @znz
- Ruby のコミッター
- <https://github.com/rurema> の管理者の一人

るりまりリニューアル

- Claude Fable 5 が期間限定の間に一気に進展
 - 終わる終わるサギや何度もリミットがリセットされたおかげ
- 長年の課題だった Markdown 化が完了
- 関連作業も一気に進めた

執筆側

- doctree の書式が bitclust RD から Markdown へ
- 1250 ファイルを機械変換して 3 段階検証で一致
- GitHub のプレビューのため、できるだけ GFM 互換
 - `### def ...` や `##since 3.1 ~ ##end` などは独自を維持
- モジュール関数は `Math.#atan2` から RBS に似せて `Math?.atan2` に変更
- 編集はページ下のリンクから .md の GitHub 編集画面へ
 - 誤字 1 文字から歓迎

読む側

- コードブロックが `ruby.wasm` で実行可能に
 - Ruby 3.2 以降、bundled gems 込み
- メソッドに対応バージョンのバッジ追加 (例: 「Ruby 3.2から」)
- RBS 型シグネチャをメソッド見出し下に表示 (Ruby 4.0 以降)
- bitclust 1.6.0 (7 月 29 日) と 1.7.0 (8 月 29 日) をリリース
 - refe2 も Markdown 版に対応
 - irb から引ける bitclust-irb を新設

Reforming

- 各ページに検索ボックス追加
 - 検索はクライアントサイド (RDoc の Aliko の検索システムの派生)
- /ja/search/ もるりまサーチから移行
 - 大量アクセスでほぼ使えなくなっていたのを改善
 - 旧版 1.8.7~2.7.0 も検索対象に復活
- docs.ruby-lang.org 全体を S3 + Fastly の静的配信に移行
 - 旧 EC2 は terminate 済み
- llms.txt・sitemap 整備、各ページ (latest のみ) の Markdown 版を text/markdown で配信 (AI 向け)

中身も一斉整備

- doctree に積み上がっていた issues 181 件を全件棚卸し
→ 残り 6 件、いずれも方針検討中
- 組み込みクラスや標準ライブラリの棚卸し、実測して修正
- 執筆ルール明文化
 - 出力例は「# =>」、例外は「# ~>」に統一
 - リテラル優先: Rational(1, 3) より 1/3r、Regexp.new('\d+') より /\d+/
 - 「自身」は self に統一
 - バージョンは「Ruby 3.0」と teeny 省略
 - 処理系は「CRuby」(「MRI」「C Ruby」は使わない)

謝辞

- 勤務先の**株式会社Ruby開発**が契約している Claude Max (Claude Fable 5) で 6~9 月に集中作業
 - 変換器の実装、3 段階検証、bitclust の Markdown ネイティブ対応、本番切替、棚卸し、S3 移行まで
- 人間の役割は方針判断とレビュー、push・PR・AWS 操作
 - 説明の修正は複数バージョンで実測してから
- 業務ツールを OSS 活動にも使わせてくれる会社感謝
- issue や PR の作成、レビューをしてくれたみなさんに感謝
 - 誤字 1 文字の修正から PR 歓迎